



アメリカ聖公会小史

大阪教区の司祭岩城聰先生が、D・L・ホームズ博士の本を翻訳され、かんよ出版から出され、一冊頂きました。読んでみて、アメリカ聖公会のことを学びたい人には必読書と思います。

その中で、成長する聖公会の教区についての1990年の研究から、成長の要因が示されています(283頁以下)。

「教区」を広く活用していること、高校生および大学生に対するミニストーリーに大規模に投資していること、奉仕や教区に対する自発的な財政支援の意図について受聖餐者を徹底的に教育すること、教会外の宣教と貧しい人々の救済活動を行うこと、海外教区との密接な関係を維持し、海外での教会活動に自発的に参加する受聖餐者に対して財政支援を行うこと、「クルーシージョ週末修養会」を実践すること、囚人に対する

るチーム・ミニストーリーを行うこと、新しい祈祷書についての学習プログラムを教区で開催すること、教区の生活のあらゆる面で主教が積極的に参加すること、教役者の給与水準を高くすること、多様な聖職のグループを組織することとありました。

私たちの教区は？

勿論、ここに書かれていることが全てとは思いませんが、今の神戸教区を調べてみる基準にはなりそうです。高校生、大学生に対する働きは、今年56回を迎える中高生大会がありますし、青年交流会も定期的に開かれています。海外教区との関係については、毎年フイリピン中央教区とのワークキャンプが行われています。そして昨年6月は、主教按手式にも参列しました。

財政支援の教育はどうでしょう。最近行われていないようです。新しい働きが必要かもしれません。各教会で修養会が行われている、という話を聞くことがあります。力を入れてみるべきでしょうか。祈り書の勉強はどうでしょうか。森紀旦主教様の「マラナ・タ」が改訂増補版として京都教区から出されています。新しい働きを、何かやってみませんか？ (神戸教区主教)



**徳山聖マリア教会
マリア・カフェ**



徳山聖マリア教会の「マリア・カフェ」をご紹介します。教会では2016年11月新会館の完成までに、ここで行う新しい活動の構想をねってきました。その一つが集会室で開くカフェでした。月に2回のオープン、集会室に約40席を準備、一人100円で飲み放題、同じフ

ロアにキッズスペースをもうけ、子育てママも安心して利用できるというものです。カフェのスタッフは、婦人会、日曜学校保護者、徳山めぐみ幼稚園保護者に交代でご奉仕いただいています。

この活動を通して、スタッフやお客様同士の交流が生まれ、会館を用いた活動の可能性を提案していただきました。現在までに料理、ハンドメイド、スクラップブックینگ、アロマストーン、フラワードイフューザーなどの教室が行われています。これに加え、日曜学校保護者の方が中心となって実行委員会を組織し、季節ごとですが手作り雑貨、野菜、ネイルサロンなど



のお店を出店する「マリア・マルシェ」を開催しています。去年1年間、会館で行われる企画に足を運んでいただいた方は、既存の活動を含めて、延べ1千人を超えることができました。これらの活動内容は教会のホームページで発信していますが、それ以上に、会館を利用するみなさんがSNSを通して、当教会における活動を紹介してくださっています。

「マリア・カフェ」を出発点に教会は大きな変化が生まれました。秋の教会バザーには、信徒数を超える方々がボランティアスタッフとして参加していただき、また主日礼拝やクリスマス礼拝にも参列くださいました。信徒という枠を超えて、チームとして共に活動する喜びを感じていただき、その中からさらにキリストと共に歩みを起す方が生まれることを祈るばかりです。

カフェ等の詳しい活動は徳山聖マリア教会ホームページ「教会での出来事」をご覧ください。

(寺田弘枝・徳山聖マリア教会信徒)